

【高校生の部】奨励賞

『私は私のままで生きることにした』(キム・スジョン/著 吉川 南/訳)

青森県立青森西高等学校 2年 中川 あおい

この本は、自分を認めて自分を愛する方法を伝えたいという筆者の思いが込められている。私人間関係に悩み、自己嫌悪に陥っているときに出会った。自分を大切にしていこうための70のことが書かれていた。

その中でも「憎まれることを恐れていい人になるのはやめよう」という文が心に響いた。人のことを気にしてばかりで自分の意見を伝えられずにいた私だったが、この言葉のおかげで自分の意見を伝えられるようになった。まわりの人を大切にすることも大切だが、一番大切にすることは自分だということに気付かされた。自分自身を知り、そして向き合いたい人は、ぜひこの本を読んでみてほしい。

『努力は裏切らない』(宇津木 妙子/著)

青森県立青森聾学校 高等部2年 古川 瑛梨奈

私は、陸上で砲丸投げとやり投げをしている。しかし、いつも強い選手を見ると、弱気になって成績が伸びない。

この本は、ソフトボール日本代表が金メダルを取った原点の話だ。「根拠のない弱気。それが日本人の一番悪いところなのだ。」という著者の言葉を読んだ時、私は恥ずかしくなった。変わろうと思った。自分も一生懸命努力してきたはずだ。相手の強さに関係なく、向かっていくことが大切だ。楽しく強く生きるのだ。そう、思えた。今ある可能性を信じて陸上を頑張ろうと思えた。この本は、辛く、厳しいことに自信を持ち、乗り越える勇気を私に与えてくれた。自分に自信を持ってないあなたにおすすめる本だ。

『桜風堂ものがたり』(村山 早紀/著)

東奥学園高等学校 1年 柴田 里美香

「闇雲に進んだっていい。景色が変われば、見えてくるものも変わる。迷いながらも、光が指す場所に、向かっていくなだよ。」この本の主人公、月原一整が新たな世界へ踏み出す一歩になった言葉です。私は、看護科という進路を選択した時、自分は本当にやりとげられるのかと何度も不安になりました。しかし、この言葉を読み「どんなに不安でも、一歩踏みだせば光は見える。一人じゃないから、迷ったら助けてもらえばいい。」と前向きに捉えられるようになりました。今、私は自分の進みたい道に踏みだし、歩み始めました。先の見えない今だからこそ、心温まる人との絆の物語をたくさんの中高生の人たちに読んでもらいたいです。

『盤上に君はもういない』(綾崎 隼/著)

青森県立鱒ヶ沢高等学校 3年 山下 麗緒菜

私は今まで、将来のことやこれからの目標も考えずに毎日をなんとなく生きていた。自分は何をしても上手くいかない、どうせ私なんて、と何事もあきらめていた。

しかし、この本を読んで、胸が打たれた。登場人物の千桜夕妃は、持病を患いながらもプロの棋士を目指す女性棋士。私は彼女が持病でどんなに体調が優れなくても、どんなに両親に反対されても、プロの棋士になる夢をあきらめなかった姿に感銘を受けた。そのあきらめずに戦う彼女を見て、私もあきらめず自分を突き通せばいいんだと思えるようになった。自分に自信がない人や自分を少しでも変えたい人に是非読んでみてほしい。きっとそんな自分を変えられるはずだ。

『死にたいけどトッポッキは食べたい』(ペク・セヒ/著 山口 ミル/訳)

青森県立弘前実業高等学校 2年 三上 愛奈

この本は、一番好きな食べ物はトッポッキであるペク・セヒさんが気分変調症と不安障害を持ち、心療内科に通院して、先生とのカウンセリングの様子から、自分の考えや意志の大切さを知ることができる作品です。

私は、自己肯定感が低く自信がない、そんな自分が嫌になる時があります。周りにどう思われているのか考えると、みんなの前で発言するのが怖くなります。しかし、この本を読んでからは、自分の可能性を信じてみることの大切さに気づいて、人によって色んな促し方があるからこそ生きていて楽しいんだということを知ることができました。この作品は家族、友達、人間関係に悩みやすい高校生のみなさんにぜひ読んでほしいです。

『あひる』(今村 夏子/著)

青森県立黒石高等学校 2年 川原田 るな

私は生来物事を深く考えすぎたり、心配しすぎてしまう性格である。日頃から常に人の顔色を伺って生活したり、相手に不快な思いをさせてはいないかということに気がすることが多かった。しかし、この本に出会い、自分にとって最適な人との関わり方は、相手の感情を深読みするのではなく、自分の考えの軸を持ち、相手には「適度な思いやりを持って関わるのがいい」ということに気付かされた。決して心の優しい登場人物ばかりではないが、現実味のある人間関係が描かれているので、人との関わり方に悩んでいる人には、自分と登場人物を重ねながら読んでみてほしい。「人と関わる自分」を客観的に見直し、いい気付きができるチャンスをくれる本である。

『あした元気になるために 人生の時間銀行』(吉田 浩/著 小倉 淳/監修)

青森県立七戸高等学校 2年 佐々木 紅葉

私はいつも思う。時間が足りないと。「課題に取り組む時間がない、睡眠時間が足りない、もっと友人と遊びたい」などと、余裕のない時間と共に生きている。誰だって思うだろう。人間は欲望に満ちているからこそ、時間を有効活用できない。そんな時、「時間の大切さ」に気づかされたのが、この本だ。時間は誰にでも平等に与えられる。しかし、お金のように自分自身で貯めることはできない時間には、とても大きな価値がある。特に、私たち高校生にとって時間は大切だ。自分が望む将来を築くには、時間を1分1秒でも無駄にしないこと。是非この本を読んでほしい。時間の使い方をよく考え、今の自分を見つめ直すきっかけとなるだろう。

『天国までの49日間～ラストサマー～』(櫻井 千姫/著)

青森県立八戸工業高等学校 2年 奥山 咲希

私のお薦めの本は、「天国までの49日間」だ。靈感のある主人公稜歩と同じグループの友達がいじめていた梢は、電車に飛び込んで死んでしまう。幽霊となり稜歩の前に現れた梢が他殺だと言い、主人公たちは犯人を探し始める。自分は小学生のとき、同級生の悪口により一時期不登校になったことがある。この本に登場するいじめ人たちと同じように、私の悪口を言っていた人たちも軽い気持ちだったかもしれない。しかし、言われる側はひどく傷つく。この本には、いじめで自殺してしまった少年も登場する。その少年は自分が死んでしまったことで悲しむ人がいたと、自殺したことをとても後悔していた。命について今一度考えるために読んでみてほしいと思った。

『桜のような僕の恋人』(宇山 佳佑/著)

千葉学園高等学校 3年 鶴飼 穂香

これは新人美容師の美咲とカメラマンの晴人の恋の物語です。両思いになる二人ですが幸せは長くとは続きません。二人のすれ違いや桜のように儂い恋、そして悲しい結末に思わず涙してしまおうでしょう。家族や友人、恋人など自分にとって大切な存在がいつどうなってもおかしくない今、この時間を大事にしたいと思える物語です。私も大切な人を亡くした経験があり、当たり前だと思ってきた日常が一瞬で覆されました。あの時間が貴重であったことに後で気付き後悔しています。この本を読み、大切な人へ思いを伝え、その一瞬をも大事にしてほしいです。この本を多くの人に読んでもらい、多くの幸せがうまれることを願っています。